

学校長



## 横浜 f カレッジ

### 令和 3 年度学校関係者評価委員会報告書

#### 1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	令和 4 年 7 月 22 日 (金) 10:00~11:30				
場 所	Zoom を利用したオンライン開催				
出席者	学校関係者評価委員	市川 雄司	株式会社 TFL 代表取締役		
		高田 明宏	株式会社高島屋 執行役員 横浜店長 (委任状)		
		那須野 教恵	神奈川県教育委員会 教育局 総務室 専門員 (前 県立高等学校 校長)		
		夏目 哲宏	株式会社ブライト 代表取締役		
		三根 真吾	合同会社 アタシ社 代表社員 (卒業生)		
		吉原 直樹	株式会社 アルテサロンホールディングス 代表取締役会長		
	教職員	岩崎 有紀子	横浜 f カレッジ 学校長		
		小松 加代子	横浜 f カレッジ 教務部 部長		
		江波戸 秀樹	横浜 f カレッジ 教務部 次長		
		角館 裕美	横浜 f カレッジ 教務部 次長		
		西木 祐子	横浜 f カレッジ 教務部 参与		
		市川 祐三	横浜 f カレッジ 教務部 参与		
		別所 慶子	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐		
		森山 光子	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 課長補佐		
		佐々木 睦美	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任		
		安池 かおり	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任		
		松本 みづほ	横浜 f カレッジ 教務部 教務課 主任補佐		
		増田 隆司	横浜 f カレッジ 教務部 広報学生課 課長 (議事録)		
		資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 3 年度自己点検評価表</li> <li>・ 令和 3 年度自己点検評価報告書</li> </ul>		

## 2. 自己点検評価報告および各項目に対する学校関係者評価

### 2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育人人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は明確か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。</li> <li>・岩崎学園 100 周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト（広報統括委員・IR 推進委員・オンライン教育構築・国家試験対策・基盤教育・教育環境整備等）が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション、美容、ブライダル、それぞれの業界の動向や特性もあるが、教員がそれぞれの職業を通じて未来に夢を持てるようなことを伝えることも大切。</li> <li>・東南アジアのように成長している地域に比べ、日本の若者の進路は多様化しているが、国自体に閉塞感があることもあり、ロングランで目標をつくるのが難しい。1つの学校で対応できることではないが、学生のモチベーションを向上させるために、学生の年齢に近い(23～25歳ぐらい)ロールモデルを招聘し、希望をもって働いているという授業を展開するとよい。</li> </ul>

### 2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・事業計画に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>	<p>&lt;運営方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。</li> <li>・令和3年度は、従来の校務分掌に新たな「マネジメント運営グループ」を新設し、組織としての力を底上げする活動をスタート。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。</li> </ul>	<p>&lt;運営方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

	<p>&lt;情報のシステム化と業務の効率化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園全体でLMS (Learning Management System) を導入。データの可視化や学生データの管理など業務の効率化が図られた。一方、日々の授業で蓄積される学習履歴などの教育データについて授業内容の見直しなどに繋げていくことが課題である。</li> </ul> <p>&lt;働き方、健康管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止、学生および教職員の安全と健康を守るために、オンライン授業の活用と、教職員の在宅ワークの推奨を行った。また、本学園に医療系専門学校が2校あることから、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を3回実施。学生、教職員および家族、近隣企業等へ広くワクチンの接種を行った。</li> </ul>	<p>&lt;情報のシステム化と業務の効率化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;働き方、健康管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
--	---	--

### 2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> </ul>	<p>&lt;教育課程の編成・実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。</li> <li>・年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、両グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。</li> </ul>	<p>&lt;教育課程の編成・実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラダイムチェンジが進んでいる。美容業界では、コロナ以前よりデジタル系のサロン予約システムが出てきていたが、コロナ禍を経て、さらに情報発信力が問われるようになってきた。つまり、自己プロデュースができることが必要になってきており、美容の技術とともに、デジタルツールの使い方が大事になっている。デジタルツールを使って顧客を獲得でき、教育ができるようになった美容師は、IT業界へも活動の領域を広げている。働き方も自由で自立したものを望むようになってきているので、学校は、ダイバーシティの中で、どうやって学生に選択させていくかという教育も必要ではないか。</li> <li>・自己プロデュース力を高めるためには、社会に出た後</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員的能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>	<p>＜オンライン授業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LMSであるスタログの導入に加え、基礎学力の向上を図るe-learning教材(すらら)の導入や学生と教職員のコミュニケーションツール(スラック)などを導入して、オンライン授業を展開。LMSでは、工程ごとの手技動画を作成・公開してマイクロラーニングを取り入れるなどして学生の隙間時間の活用が進んだり、授業後すぐに録画した授業動画を公開することで復習用に活用したりし、検定試験の合格率向上に寄与した。</li> </ul> <p>＜令和4年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の導入をめざし、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムの再編に着手。</li> <li>・令和3年度は学内共通科目として導入する3科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」のカリキュラムを導入した。これまで、学科ごとに運営していた科目を統一し、本校としての到達度を標準化した。なお、「クラスアクティビティ」においては、学科特性を最大限に活かした主体的、機能的な活動時間に変化している。また、令和4年度に向けて、全学科の学生を対象にしたオンデマンド型の資格取得講座を3講座「サービス接客検定2級講座」「アロマセラピー検定講座」「ネットショップ実務士補検定講座」を計画し、準備を進めた。令和2年度は、令和3年度から学内共通科目として導入する3科目「クラスアクティビティ」、「サービストレーニング」、「ITリテラシー講座」のカリキュラム開発を進めた。</li> </ul> <p>＜産学連携・インターンシップの体系化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続きコロナ禍で対面での活動に制約があったが、継続的に実施できた産学連携やインターンシップも多数あり、学生には実践的な学びの場となった。</li> </ul>	<p>に、自分が何をしたいのか、どういう人間になりたいかということを問うこと、つまり、ティーチングからコーチングの教育に代わる必要があると考える。また、美容業界の場合、薬剤の進化は目覚ましいので、知識学習も重要。そして、美容業界の職種は多様化しているので、スタイリストだけではなく選択肢をたくさん持たせることも大切になってくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学びでは、グループワークなど複数でコミュニケーションをとって何か1つの物事を考えるようなことが大切ではないか。コロナ禍以降、そういうことがしづらくなっているのではないか。そういったものを教育活動の中に随所に取り入れることが必要ではないか。</li> </ul> <p>＜オンライン授業の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングとは、授業中の学生が常に思考する状態になっている学習である。オンライン学習でも思考がアクティブになるような課題と展開が重要。また、チャット機能などを活用し双方向性のある、授業展開にしていくことも大切。</li> <li>・教育動画の利用が進んでいる。一方、3次元でなければ教えられないこともある。技術を身に付けるためには、対面でのフォローアップも取り入れ、モチベーションを高めながらリアルとデジタルを融合し新しい教育ツールを開発していくことが課題。</li> <li>・ハイブリットの教育を続けてきた経験から、人間の感性など、場を共有することで得られることもたくさんある。美意識や感性などクリエイションに必要なところは、場を共にした方が育みやすい。</li> <li>・オンラインの活用について言えることは、これは学生にとってはチャンスだということ。新入社員の時は、先輩の方が、キャリアが長く教えてもらう立場になるが、オンラインの活用に関しては、ほとんど差がない。一斉に始まったところがほとんどになるので、上司や先輩よりも、新入社員のほうが詳しいということもあり得る。教育現場でオンラインの活用、オンラインで発表する、自</li> </ul>
--	--	---

産学連携の取り組みの形態は様々だが、企業提示の課題に企画段階から参加し、実社会で商品化される等、実践的な内容の取り組みも定着してきている。また、環境問題やヘッドネーション等、現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組みも継続できた。

■以下連携事例について詳細を報告。

・企業提示の課題による産学連携

－横浜高島屋との連携によるフォーマルウェアの提案や、ファッション売り場のディスプレイ、革小物の商品化に取り組んだ。

－マイナビウェディングとの連携で、InterFMのラジオ番組の制作、並びに、ロケーションフォトプレゼント企画を実施した。

・現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

－日頃の学びの成果・課題解決を披露する「Icon IWASAKI IDEA CONVENTION」に参加した。

・ビューティースタylist科における産学連携授業の紹介と、令和4年度に向けたファッションライフデザイン学科の3Dモデリング授業導入のための準備。

分の意見を伝えるという経験そのものが、社会人になった時にはかなり役立つのではないかと。

・教育を提供する側は、オンラインではできないことがたくさんあるというように、過去の経験値から、当てはめてしまうことがある。しかし、教育もテクノロジーで変革していくと言われており、オンラインでできることをさらに、学校が開発していくことが必要だと感じている。我々が過去の物差しをそのまま現在に当てはめて、オンライン教育をそのまま評価するというよりも、もう少し、新たな未来に向けて、オンライン教育をいかに活用するかという視点も必要ではないかと。

<令和4年度に向けた、学科横断的な共通カリキュラムの検討>

・特になし

<産学連携・インターンシップの体系化>

・今、ファッション業界では、令和4年度に横浜fカレッジが導入した3DCGを作るという技術が、非常に注目を浴びている。3DCGを使って、サプライチェーンを変革させようということが、グローバルに動き始めた状況。ラグジュアリーブランドでも一気に3D化が動き始めたため、日本のアパレル企業も同様に動いていくことになる。国内の3DCGソフトの販売代理店の報告によると、250社以上が3DCGのソフトを導入している。早い段階で、3Dモデリングの人材育成に取り組むことはよいこと。

2-4. 環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> </ul>	<p>＜施設・設備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、すべての学科で学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。</li> </ul>	<p>＜施設・設備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美容系の学科は設置当初と比較すると募集定員が増えているので、在籍している学生が快適に学べるような設備増資も必要。</li> </ul>

2-5. 学習成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>	<p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入され、令和3年度は10名の内部特待生を選出した。</li> <li>・内部特待生は、本学園姉妹校の学生が横断的に参加するアイデアソンなどのプログラムに参加し知見を広めるとともに、学校情報の発信に寄与。また、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。</li> </ul> <p>■就職実績・資格取得・コンテストについて詳細を報告</p> <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に対する支援は、岩崎学園全体の就職情報を統括的に管理する部門と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和3年度も、前年度に引き続きコロナ禍による影響がある中、粘り強く就職活動を実施した。</li> </ul> <p>【令和3年度就職実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一就職率：96.0%（就職希望者322名、就職者309名）</li> <li>・令和3年3月の卒業生から導入した制度「就職支援保証制度」。令和3年度の活動において、制度登録者の半数の就職が決まった。</li> </ul>	<p>＜内部特待生制度＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>＜就職実績＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援保証制度を用いて、就職できずに卒業していった学生をフォローしていくことはよいこと。</li> <li>・ファッション業界では、新卒で募集がかからない職種も多数ある。就職活動をする時点での希望と実際に内定した職種のギャップなども調査しておくことよい。</li> <li>・新卒で学生を採用する際、自分の将来像を持っていることは、採用する側の観点として大切なポイントとなる。学生が就職活動をする際に、面接官や企業の社員に対して、自分自身の方向性や考えを伝えらえるような支援をしていくこともキャリア教育のひとつ。</li> <li>・キャリア教育では、学校側がどれだけ情報提供ができるかということが大事であるが、その情報を選んでいくのは学生自身であることを伝えていくことも必要。また、選択していくスキルを同時に提示していかなければならない。</li> <li>・価値観が多様化している。また、変化のスピードも短くなっている。このような状況下でキャリア教育を展開するには、教員の価値観に基づく指導だけではなく、教員側も価値観を変化させ新しいことに挑戦していく必要がある。</li> </ul>

	<p>&lt;資格取得・コンテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。</li> <li>①美容師国家試験合格率 97.0%。全国平均の合格率を上回る成果を得た。</li> <li>②ブライダル科では、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定 3 級の合格率が 100.0%。また、全国の専門学校で初めて 2 級合格者を輩出した。</li> <li>③第 18 回ビジネスユースコンペティションに 2 作品が入賞。本コンテストのエントリーは 5 年目となり、学生の目標として定着。</li> <li>④TAT ネイルアートコンテスト 2021・ケサランパサラン 2021 フォトコンテストの両コンテストにおいて、それぞれグランプリを受賞。ネイルアートコンテストのグランプリの受賞は 2 年連続。</li> </ul> <p>&lt;退学者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退学率 10.8% (前年 7.5%)</li> </ul>	<p>&lt;資格取得・コンテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果をあげるために取り入れた学生同士の教え合い学習はよい取り組み。また、国家資格の合格率向上に寄与したことも成果がでていてよい。今後は、学生同士の教え合い学習の領域を広げていくと、新しい教育の展開ができるのではないかと。</li> </ul> <p>&lt;退学者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
--	--	--

## 2-6. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> </ul>	<p>&lt;学生相談&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数の人間で対応をしている。</li> </ul> <p>&lt;経済的な支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 2 年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。</li> <li>・給付型、貸与型と様々な支援策があり、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。</li> </ul>	<p>&lt;学生相談&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;経済的な支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;保護者との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;防災体制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が 行われているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>	<p>&lt;保護者との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面にて通知している。また、入学ガイダンスやビューティースタイル科の保護者会、学校行事の様子など、オンラインにて配信を実施した。</li> </ul> <p>&lt;防災体制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・激甚災害行動マニュアルを策定し運用。</li> <li>・スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。</li> </ul>	
---	---	--

#### 2-7. 学生の受け入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>	<p>■学生募集活動について以下詳細の報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 3 年度入学生は 436 名（前年 460 名）。</li> <li>・令和 2 年度はコロナ禍の影響もあり地元進学志向が高まったが、令和 3 年度はワクチン接種などの対策も進み、東京への進学志向がコロナ禍以前に戻りつつある。本校の神奈川県外からの進学者数もコロナ禍以前の割合に戻りつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

#### 2-8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>



2-9. 法令順守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県からの認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。</li> <li>・個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。</li> <li>・平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者評価委員からの評価・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>	<p>＜学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。今後は、学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、地域社会の貢献につながる活動の企画・遂行が課題。</li> <li>・医療系専門学校2校を持つ強みを活かし、新型コロナワクチンの職域接種を3回（6月～7月、7月～8月、2月～3月）、対象を、本校の校生、教職員および家族のみならず、近隣企業等へ幅広く実施した。特に1回目、2回目のワクチン接種は、接種券の配布が遅れる中、いち早く実施できたため、学内の感染抑止に役立つことはもちろん、近隣企業はじめ多くの方々から感謝の言葉が寄せられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会に対して貢献できる場であり、また、社会的な意義を持って美容の仕事をしたと考えている卒業生や在校生が活動できる、サロンみたいなものを設置してもよいのではないかと。</li> </ul>

	<p>&lt;地域に対する公開講座・教育訓練の実施&gt;</p> <p>・前年度、コロナ禍で中止となった高校生向け講座「仕事のまなび場（4講座 99名参加）」・「総専協夏季公開講座（2講座 32名参加）」、鎌倉湘南地区高校連携講座「ブライダル関連のキャリア教育 22名参加」などは、感染対策を行いすべて対面にて開催した。</p>	
--	---	--

以上

教務部長	作成者
	